

# 3 1. 2025 年度 大分県てんかん地域連携体制整備事業活動報告

大分大学医学部附属病院 脳神経外科/医療情報部 松田 浩幸

## 1. 概要

大分大学医学部附属病院は、2023 年 10 月 18 日に大分県よりてんかん地域連携体制整備事業におけるてんかん支援拠点病院の指定を受け、活動を開始した。

2025 年度は初めて年間を通して活動することになった 2024 年度に続き実質的には 2 年目の活動期間となる。事業の実施体制としては、昨年度より継続して専任のてんかん診療支援コーディネーター1 名（看護師）と院内のてんかん専門医 2 名（小児科・脳神経外科）が中心となって活動を行っている。てんかん専門医 2 名も昨年度てんかん診療支援コーディネーター資格を取得した。

## 2. 活動内容

### 1) 大分県てんかん医療・地域連携協議会

2025 年 5 月 22 日に 2025 年度大分県てんかん医療・地域連携協議会を開催、てんかん地域連会体制整備事業・てんかん支援拠点病院の昨年度の事業について報告、本年度の事業計画について検討、承認を得た。協議会構成員は以下の通り。

	氏名	所属	
1	石田 重信	あけのメディカルクリニック 理事長・院長 一般社団法人 大分県医師会	てんかん専門医
2	岡成 和夫	大分県立病院 小児科 副部長	
3	朝倉 豊美	公益財団法人日本てんかん協会大分県支部代表	家族
4	土山 幸之助	大分県こころとからだの相談支援センター所長	
5	小野 重遠	大分県保健所所長会（大分県北部保健所所長）	都道府県
6	荻 貴伸	大分県障害福祉課 課長	
7	松田 浩幸	大分県てんかん支援拠点病院 （大分大学医学部附属病院脳神経外科）	事務局兼委員
8	小林 修	大分県てんかん支援拠点病院 （大分大学医学部附属病院小児科）	
	佐々木 基子	大分県てんかん支援拠点病院 （コーディネーター・看護師）	事務局
	朝来野幸治	大分県障害福祉課精神保健福祉班 課長補佐（総括）	
	津田 里咲	大分県障害福祉課精神保健福祉班 技師	

### 2) てんかん専門相談窓口

#### 1. てんかん専門相談窓口の運営状況

てんかん専門相談窓口は、昨年度同様に平日の水曜日から金曜日の 10 時から 15 時に開設した。てんかん診療支援コーディネーター（看護師）1 名が担当した。

なお、非常勤体制により開設時間が不規則となる場合があることから、公式 Instagram を活用して開設時間の事前案内を行うとともに、不在時には自動音声ガイダンスによる対応を行い、相談希望者への周知と利便性の確保に努めた。

#### 2. 電話相談の実施状況および相談内容

令和 7 年 4 月から 12 月までの期間における電話相談件数は下表の通りである。期間中の相談件数は延べ 69 件であり、そのうち新規相談は 50 件であった。月別では、各月を通じて継続的に相談が寄せられており、特に秋以降に増加傾向を示した。

この増加は、大分県子ども未来課を通じて県内の保育園・幼稚園等に対し、「てんかんの基礎知識と発作時の口腔溶液の投与について」の研修を実施している旨の案内が一斉に周知されたことが影響したものと考えられる。実際に、研修案内後には教育・保育関係者からの相談や研修依頼が増加しており、事業周知が電話相談窓口の認知向上および利用促進につながったことが示唆された。

相談者の属性は、当事者本人および家族が中心であったが、教育・保育関係者、行政機関、福祉関係者からの相談も含まれており、本相談窓口が医療分野にとどまらず、多分野にまたがる相談窓口として機能していることが示された（下表）。

相談内容については、治療・検査に関する相談や、てんかん専門医・医療機関に関する相談が多く認められたほか、研修依頼に関する相談が 25 件と一定数を占めていた。これらの結果から、教育・保育現場におけるてんかん対応への不安や研修ニーズの高さが明らかとなった。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
総数	7	2	6	7	4	7	6	17	13	69
新規	3	2	4	5	1	6	6	14	9	50

月別相談件数

続柄	本人	親	子	配偶者	親戚等	兄妹	祖父母	行政機関	医療機関	教育/保育	部活の保護者	波の会	報道関係	合計
	16	9	1	1	1	1	1	4	0	31	1	1	2	69

相談者の属性

てんかん支援拠点病院について	3	医療・福祉に関する不満	4	その他)
てんかん専門医について	9	教育・仕事問題	7	患者家族会の紹介 (2件)
治療・検査に関すること	19	社会福祉制度の相談	1	電話相談窓口について (2件)
他医療機関紹介	3	医療・福祉施設相談	3	てんかんのマニュアルについて問合せ
関係機関紹介	0	生活・療養問題	9	学校として、保護者との対応について (2件)
初期受診勧奨	0	心理・情緒問題	12	学校と医療機関との連携方法について
セカンドオピニオン	3	運転免許について	3	市民公開講座の新聞掲載の提案
自立支援制度について	2	移行期医療について	0	市民公開講座について問合せ (3件)
医療費相談	1	研修依頼	25	他機関の相談窓口を紹介
相談の内容		その他	13	

### 3) 教育分野における研修・支援

#### 1. 特別支援学校・養護教諭等を対象とした研修

今年度も県教育庁特別支援課の依頼を受け、県内特別支援学校を対象とした「医療的ケア実施校担当者研修」および「学校看護師研修」を実施した。研修では、てんかんの基礎知識、発作時の観察・記録・対応、医療的ケアを実施する上での留意点について講義を行った。

また、研修実施後に個別の研修依頼を受け、夏休み期間中に県内の特別支援学校を訪問し、全教職員を対象とした研修を実施した。これにより、特定の職種に限らない学校全体での共通理解を深め、発作時に組織的に対応できる体制づくりを推進した。

さらに、大分市教育委員会体育保健課の依頼により、大分市内の小中学校に勤務する養護教諭を対象とした「大分市養護教諭前期研修」において、てんかんの基礎知識および学校現場で想定される発作時の対応について研修を実施し、児童生徒の安全確保と教職員間の連携強化を図った。

#### 2. 保育園・幼稚園等への個別研修およびフローチャート作成支援

大分県こども未来課を通じて、県内の保育園・幼稚園等へ一斉に研修案内を行った結果、個別研修の依頼があり、令和 6 年 12 月より今年度末までに県内 12 か所での研修実施を予定している。

これらの研修では、てんかんの基礎知識や発作時の対応についての講義に加え、発作時対応の演習や、受け入れ児の状況に応じた発作時対応フローチャートの作成支援を重点的に実施している。職員とともに具体的な役割分担や動線を確認しながら作成することで、発作時にも落ち着いて対応できる体制づくりにつながっており、研修の成果が具体的な形として各施設に残る実践的支援となっている。

### 4) 地域に向けた啓発活動の実施

#### 1. プロスポーツ会場での啓発活動

てんかんに対する正しい理解の普及を目的として、8 月および 9 月に開催された J2 大分トリニータのホームゲーム会場において啓発活動を実施した。8 月は県民デーに参加し、啓発用うちわ等を配布した。9 月の試合では、ハーフタイムにスタジアム内大型ビジョンを活用した啓発動画の上映およびパープルライトアップを実施した。さらに、大分県障害福祉課の協力により、試合開始前には約 2,000 枚の啓発用うちわを配布し、幅広い層にてんかんについて知ってもらう機会を創出した。

配布したうちわに当事業の公式 Instagram へ誘導する QR コードを掲載した。その結果、イベント実施翌月の Instagram 閲覧数は実施前と比較して 38% 増加し、特にフォロワー以外のユーザーによる閲覧数は 51% 増加した。これらの数値から、スタジアムという非医療の場を活用した啓発活動が、これまででんかんに接点のなかった層へ情報を届ける契機となったことが示唆された。

#### 2. 市民公開講座

2025 年 3 月 20 日 (2024 年度活動)、2026 年 1 月 17 日 (2025 年度活動) にそれぞれ市民公開講座を開講した。いずれもハイブリッド開催とし、両回とも現地・Web 合わせて約 100 名の聴講があった。また、

内容について地元新聞への記事掲載もあり、一定の啓発効果がみられたものと推測される。

「てんかん」は誰にでも  
起こりうる脳の病気です。  
しかし、適切な治療と  
周囲の理解があれば、  
穏やかな日々を  
送ることができます。  
「共に生きる。」ために  
知ってほしいことが  
たくさんあります。

知ることは、繋がること。  
お気軽に、ご参加ください。

紫の輪が、  
繋がる日。

第3回 市民公開講座  
**てんかんと共に生きる**  
～理解とサポートの輪を広げよう～

日時  
2026  
**1/17 (SAT) 14:00 - 15:30**  
J:COM ホルトホール大分 2階 201.202会議室

参加費  
先着100名 (事前申込不要)  
オンライン: 150名 (申込締切1月15日まで)  
申込方法: 下記の予約サイト、またはQRコード  
からお申し込みください。  
<https://forms.gle/v8SF1WLSKJckMzcm8>

お問い合わせ  
大分県てんかん支援拠点病院事業  
**050-3613-1679**  
(※本会・公開講座当日のみ対応)  
[tenkan\\_public\\_lecture@oita-u.ac.jp](mailto:tenkan_public_lecture@oita-u.ac.jp)

主催: 大分大学医学部附属病院  
(大分県てんかん支援拠点病院事業)  
共催: 公益社団法人日本てんかん協会大分県支部  
後援: 全県てんかんセンター協議会、大分県、大分市、一般社  
団法人大分県医師会、大分県小児科医会、大分県看護  
協会、大分県看護士会、NPO法人てんかん協会、大分県  
福祉社、OITA大分大学、TODテレビ大分、OAB大分新聞  
編集、制作スタッフ

図1 2025年度てんかん市民公開講座チラシ

### 3. その他

- ・リーフレット作成配布
- ・市報/広報誌への掲載
- ・SNS 発信

### 5) ホームページ作成、てんかん地域連携・診療体制調査

2025年7月よりてんかん支援拠点病院ホームページを、大分大学医学部附属病院ホームページ内に公開した (<https://epilepsy.wp.med.oita-u.ac.jp/>)。ページ内には、大分県内のてんかん診療提供医療機関リストも公開している。リストは随時更新しているが、大規模なリストアップ調査は2023年度後半の本事業開始時に行き来出来ていないため、今後の課題である。

### 3. てんかん診療・診療支援、医師・医療従事者向け研修

月1回の多職種てんかんカンファレンスを開催、主に症例検討を行っている。

2025年(1月～12月)のてんかん外科手術件数は6件であった。

てんかん地域診療支援として、医師派遣によりてんかん専門外来を県内遠隔地2ヶ所に開設、それぞれ週1回、月1回のてんかん専門外来診療を行っている。

製薬会社共催等含め、医師向け、あるいは医療従事者向けのてんかん講演会を複数回開催している。

### 4. まとめ

大分大学医学部附属病院では、2023年10月よりてんかん支援拠点病院の指定を受け活動を開始したため、実質的には本2025年度は2年目の活動となる。初めて年度を通して活動した昨年度と比較して変化の見られた点は、教育現場での研修活動の増加充実、プロスポーツ興行での啓発活動、ホームページの公開である。

教育機関向けの研修は、教育行政のご協力もあり認知度が高まるにつれリクエストが増加しており、本県におけるてんかん支援拠点病院事業の特色となっている。一方で、コーディネーター1名で担当する体制のため、研修実施日は電話相談窓口を閉じることになり、窓口開設日が減少している。この点については、今後大分県と本事業の体制強化に関する協議が必要と考えている。

J2大分トリニータの試合での啓発活動は、SNSのビュー数増加という形で着実な効果を上げており、リソースは必要となるが、来年度以降も継続して実施を希望している。

ホームページは、ランニングコスト低減のためある程度自力でメンテナンスできる仕様で作成した。今後の課題はコンテンツの充実である。

市民公開講座は3回目の開催となったが、前2回、今回とも100名程度の聴講を頂き、潜在的なニーズを引き続き伺わせている。

大分県は県内のてんかん診療体制が充足しているとは言えず、地域連携体制整備事業を通じて、診療体制の充実、医療資源の有効活用、医療・介護・福祉等領域間連携の推進を図り、てんかん患者さん・ご家族、関係者の地域での医療・介護へのアクセス改善へ引き続き取り組んでいく必要がある。